

「さんべボランティアセミナー」

1 趣 旨

- (1) ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することにより、社会の様々な場面で主体的に活動しようとする姿勢やボランティア精神を育む。
- (2) 先輩ボランティアやボランティアセミナーに参加した仲間、そして、三瓶青少年交流の家職員とのつながりをつくることにより、今後のボランティア活動への意欲を高める。

2 事業の概要

- (1) 期 間
令和 8 年 9 月 5 日（土）～9 月 6 日（日）
- (2) 会 場
国立三瓶青少年交流の家
- (3) 対 象
ボランティア活動に興味のある青年
- (4) 参加者（※募集 35 人）
高校生 2 人、大学生 12 人、社会人 2 人 計 16 人
- (5) 講 師
くにびき自然学校 代表 佐藤 しのぶ 氏
大田市社会福祉協議会 島田 奨馬 氏、日高 麻里 氏
国立三瓶青少年交流の家 職員
法人ボランティア 長崎 耕作 氏、伊藤 正紘 氏

(6) 日程・研修内容

【9/5（土）】

- 10：10 オープニング（趣旨説明）
- 10：20 アイスブレイク
- 11：30 「青少年教育施設の現状と運営（1.0h）」
- 12：30 昼食
- 13：30 「ボランティア活動の意義（1.5h）」
- 15：00 「ボランティア活動の技術（4.0h）」
(夕食時間を含む。)
- 19：30 「青少年教育施設におけるボランティア活動①（1.0h）」
- 21：00 入浴
- 22：30 就寝

【9/6（日）】

- 9:00 「安全管理（救命救急）（3.0h）」
- 12：00 昼食
- 13：00 「青少年教育（1.5h）」
- 15：00 「青少年教育施設におけるボランティア活動②（1.0h）」
- 16：00 クロージング（振り返り）
- 16：30 終了

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

ア 本事業は、「国立三瓶青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」における「育成の入口」に当たる。今後、参加者が当所の法人ボランティアとなり、継続して参加しやすい環境を作るため、ボランティア養成共通カリキュラムを実施する上で、「参加者同士だけでなく、先輩ボランティアとのつながりも深めること。」「三瓶青少年交流の家でのボランティア活動を理解してもらうこと。」を大切にしている。このセミナーでは座学中心となるため、受講者が飽きずにボランティア活動の基礎を学べるよう、「アイスブレイク」や「野外炊飯活動」の時間を設定した。

イ 参加者と三瓶で活動経験のある先輩ボランティア（さんボラ）とのつながりを深めるため、先輩ボランティアには、「自身のボランティア活動についての発表や過去の体験から得た学びや気づき」の話をしてもらい、参加者に今後のボランティア活動の参加イメージをつかんでもらった。

ウ 大田市社会福祉協議会の島田奨馬氏、日高麻里氏を講師に招き、「ボランティア活動の意義」について、より専門性の高い知見から講義いただいた。

エ 救急救命法・安全管理の講義・演習では、くにびき自然学校の佐藤しのぶ氏を講師に招いた。講義では、「いつ起こるかわからない“まさか”に対応する」ための様々なシチュエーションを想定した救急救命法を学ぶことができた。

(2) 運営のポイント

ア 幅広い年齢層の参加者には、初対面の参加者も多くいたため、アイスブレイクやグループワークを取り入れ、お互いを知る機会を多く設けた。

イ 「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、先輩ボランティアから当所の事業説明等を行うことに加え、過去の体験から得た学び・気づきについて、参加者に直接語ることとした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	81	19	0	0
プログラム	62	38	0	0
運営	75	25	0	0
職員の対応	93	0	7	0

(2) 参加者の声

- 「ボランティアに関する様々な内容のプログラムが体験できてよかった。」
- 「ずっと思っていた地域ボランティアに対する思いがこの事業に合致していて、来てよかったです！」
- 「話を聞くだけでなく、実際に体験を通して学べてよかった。」
- 「ボランティア活動、自然体験活動の基礎を学ぶことができた。」
- 「事前に危険を予想して想像力をふくらませることが大切だと学んだ。危険なことは起きないと思うのではなく、起こるかもしれないと常に考えて、どう行動すべきか考えていきたい。」

5 成果と課題

《成果》

- 「初めて会う方々と様々な活動をすることができ、楽しくボランティアについて学べた有意義

な 2 日間となった。」といった概ね肯定的なアンケート記述が多かった。このことから分かるように、本セミナーにおいて多くの人との交流を通して、参加者間の親睦を深めることができた。

- 「話を聞くだけでなく、実際に体験を通して学ぶことができてよかった。」というアンケート記述からも分かるように講義だけでなく、野外炊飯や救急救命法など随所に体験する場を設定したことで参加者にとってより実感を伴った理解ができるセミナーとなった。
- くにびき自然学校の佐藤氏の講義・演習では、事前のシミュレーションの重要性やリスクマネジメントを考える際の要因について学ぶことができた。
- 参加者同士だけでなく、先輩ボランティアとのつながりも深めることを大切に企画・運営を行ったことにより、事業終了時には連絡先を交換し合う姿も見ることができた。

《課 題》

- 今回のセミナーでは、計 16 人の法人ボランティアを養成できたが目標の 35 人に達することができなかった。来年度に向けて、参加しやすい日程や場所を改めて検討したい。また、近年ではボランティアが参加できる教育事業等の数が以前と比べ少なくなっており、より多くのボランティアが当所でボランティア活動できるよう活躍の場を創出していきたい。
- 今年度は法人ボランティアが主体となって運営する自主企画事業ができなかったため、来年度は早めに始動し、自主企画事業を行いたい。
- 当所は高校生の法人ボランティアが少ないため、今後は島根県立大田高等学校、邇摩高等学校、飯南高等学校など近隣高校に対する広報活動に力を入れるなど、高校生のボランティア活動を推進する手立てを考える必要がある。

6

活動の様子



担当：企画指導専門職 錦織 逸人)